

尚綱の風

～尚綱のOG訪問～

W I N D O F S H O K E I

Iwanaga Naoko

岩永直子

学生時代に身に

付けたことは

一生役に立ちます

歴史と伝統ある尚綱学園を卒業し、今輝いている先輩方を紹介する「尚綱の風」。今回は、尚綱大学の二期生として尚綱学園に学んだアイ・エヌ・コーポレーション社長の岩永直子さんに、お話を伺いました。

プロフィール

昭和31年9月4日生まれ、昭和54年3月尚綱大学文学部国文学科卒業。自動車会社勤務を経て、損害保険会社の研修生卒業後、平成14年10月より代理店(有)アイ・エヌ・コーポレーション設立、現在に至る。

「から始めたキャンパスライフ

尚綱大学に進まれたきっかけは？

私は公立の第二高校から尚綱大学に入った二期生です。ちょうど大学の創立時で、私たちが高校の先生が尚綱大学の国文科の教授として就任されることになり「僕も新しく大学生活を始めるし、君たちもどうだい」とおっしゃったので、6人ぐらい一緒に受験いたしました。

「草創期の学園生活はいかがでした？」

施設はまだ整っていませんでしたが、とても楽しいキャンパスライフでした。クラブも何もかも、全部自分たちで作ったんです。最初の年は1年生だけで1000人ぐらいでした。人数が足りないで、みんなかけ持ちでクラブに入っていましたね(笑)。私はテニス部や合唱部に顔を出していました。自分たちが

やったことが残っていくんです

から、無我夢中でした。まだ未完成の何もないグラウンドでサッカーをしたり、バレーボールをしたり、友達と和気藹々(わいきあい)とても仲が良かったんです。

他人さまに助けられて現在がある

当時は独創的な先生が多くて、卒論の「源氏物語」を指導していただいた国文科の中原先生、英文科の吉村先生、べらんめえ調でドイツ語を教えていらした黒石先生などは忘れられません。体育の井上先生には、就職までお世話になりました。30年くらい前から、4年制大学卒の女性の就職は厳しかったですよ。ほとんどの企業で「短大卒までしか採用しない」と言われました。寿退社が当たり前の時代でしたから、22歳で就職してもすぐ結婚して辞めると思われていたんですよ。でも幸いなことに、たまたま紹介されて行った企業の就職担当の方が、井上先生の高校時代の教え子でいらして、そのご縁で就職試験を受けさせていただくことになり、自動車会社に就職できました。

「運にも恵まれてらっしゃいますね？」

大好きな言葉に「二期(会)」というのがあります。人とお会いした時に、お会いできたというチャンスをおいにか使うかということが、人生の上で大切だと思います。子供のころの夢は「お嫁さん」だったのに、なぜかこれまで独身で来てしまいました。でも、ずっとやりたいことがあって、人生を楽しんできたという感じです。最初の就職先ではフロントを10年、営業を3年半担当させていただきました。転職後は損害保険や生命保険の代理店業務を主にやってきましたが、これも仕事や趣味のお筆(ひし)で培った人間関係のお陰だと感謝しています。最近では、国内の仕事だけではなく、ファイナンシャルアドバイザーとして香港やハワイへ行くこともありますので、もっと英語を勉強しておけば良かったと思います。尚綱大学も、22年度からは文化言語学部がリニューアルしますが、英語で確実にコミュニケーションを取れる学生を育ててほしいと思います。平成18年度には、管理栄養士を養成する生活科学部が新たに出来ました。このように卒業したら仕事に直結するような資格の取れる学部を増やしてほしいですね。

大学の4年間は大事な社会勉強の場

私が大学進学を決めたきっかけは、高校一年生の時に生物の先生に「高校に入るのに、みんな勉強が大変だったね。大学生活を楽しまなきゃいけないから、君たちは絶対に大学に行くべきだ」と言われたからなんです。東大出のとてもユニークな先生でした。確かに、大学は社会勉強をする場だと思います。高校を卒業していきなり社会に出るよりも、大学の4年間で社会生活を身に着けるのはとても大切なことです。今の若い方たちが苦手な対人関係などをしっかり学んでほしいんです。そして、確固たる目標を立てて、その目標に向かって進んでいていただきたい。今の時期は今しかないんです。自分をもっと大切にして、興味を持ったものは必ず自分のものにする努力を惜しまないでほしいと思います。貴重な4年間に身に付けたことは、一生役に立ちますよ。

「今日はありがとうございました。」



熊本城数寄屋丸でのお箏の練習風景



大学時代



代理店仲間と香港に研修に出かけたときの写真(前列左)